

銅賞

人の心が変わるとき

横須賀市立馬堀中学校三年

小川 航輝

「甲状腺検査をしてください。」

先日、僕が病院の待合室にいる時に、隣にいた二十代から三十代くらいの女性が看護婦にこう言っていた。僕は最初、

（甲状腺検査って何だろう？）と思ったものの、耳になじみがないのでそのままスルーしてしまった。しかし、その女性が検査のために、違う部屋に行った、その瞬間、自分の向かいにいた男性が自分の子供に

「今の女の人、危険かもしれないから近づいちゃダメだよ。」と言っているのが聞こえた。

子供は親の言っていたことを理解している様子だったが、父親がなぜそう言ったのかまでは理解していなかった。自分もどういう意味かは、さっぱりだったが、「危険」という単語を聞いて、

（きっと、インフルエンザみたいな人にうつる病気なんだな。）と思ってしまった。

家に帰り、「甲状腺」のことを父に、

「甲状腺検査って何？」と尋ねたら意外な答えが返ってきた。

「甲状腺というのは、首の付け根や喉のあたりにあるもので、放射能がたまってしまう場所だよ。そこで放射能をたくさん浴びると甲状腺の病気になってしまうんだ。だからそこを検査するとどれくらい放射能がたまっているかが分かるんだ。」と教えてくれたからだ。それでも半信半疑だった僕はインターネットで「甲状腺」について検索してみたがそこにかかれていた内容は父が言っていたものとはとんど変わらなかった。その瞬間あの男性が言っていた意味がようやく理解できた。あの男性はインフルエンザなどの菌を危ないと言った訳ではない。「甲状腺」という単語を聞いて「放射能」が危ないと言ったのだ。そのことを理解した僕はとても悲しくなった。その男性は自分でも知らないうちに「福島」を差別していたからだ。他にも福島産のものを買わないだとか、福島のガレキを受け入れたくないだとか、福島に関するものは他にもたくさんある。自分だって「放射能」と聞いて危険だとか心配などと思う人の気持ちは分らないくもない。しかし、「放射能」は人にうつらないともう分かっているし、食べ物やガレキにしたって「放射能」の心配はないとされているのにも関わらず、「福島だから」、「放射能は危険だから」などと

いうくだらない理由で「福島」を差別するのはおかしいと思う。少しは、福島の人気持ちになって考えてみてほしい。もし自分がその立場の人間になったらどうしてほしいかを。あの「東日本大震災」で被災した人は運が悪かったなどと不謹慎なことを言う人もいるが、本当にそうだったのだろうか。確かに自然災害は誰にも予測がつかない。そういう意味では運が悪かったのかもしれない。だが、そうだとっても、自分達にできることが何か必ずあるはずだ。一人の日本人として。いや、一人の人間として。この「東日本大震災」のために多くの人が募金をしたと思う。この人達は自分と同じ人間を助けるためにした行動だと思う。また、日本人ではなくても国境をこえて支援してくれたことはとてもすごいと思うし感動した。自分はこの人達のこと同じ人間として尊敬するし、誇りに思う。それなのに、日本国内で「福島」に対する差別があると思うととても心が痛いし、残念であると同時に支援してくれた他の国の人にも失礼で申し訳ない。だから、自分は絶対に差別はしない。そういう信念をもって生きていきたい。

今回、僕は「福島と放射能」について書いてきた。福島は現在もなお復興の最中である。今からでも遅くない。何か自分達にできる

ことがあるのではないか。福島の人も自分たちと同じ「人間」だ。「福島」だからといって特別なものでも何でもない。だから「福島」を差別する理由なんてどこにもないと僕は思う。日本ではある程度「人権」は守られているが、世界の国では、日本の国のような「先進国」ばかりではない。「人権」が守られない国だっただくさんある。日本では「人権」があるのにも関わらず「差別」があるのは、みつともないと思う。自分達は「人権によって守られている」ということを忘れずに、普段から生活して行ってほしい。現状ではまだ、難しいが、世界中で差別や偏見がない世界がおとずれることを願いたい。私はいつまでも信じ続ける。